

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年7月14日

【四半期会計期間】 第24期第1四半期(自平成29年3月1日至平成29年5月31日)

【会社名】 株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド

【英訳名】 Samantha Thavasa Japan Limited

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 寺田和正

【本店の所在の場所】 東京都港区三田一丁目4番1号

【電話番号】 03-6400-5524

【事務連絡者氏名】 取締役 菅原隆司

【最寄りの連絡場所】 東京都港区三田一丁目4番1号

【電話番号】 03-6400-5524

【事務連絡者氏名】 取締役 菅原隆司

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第23期 第1四半期 連結累計期間	第24期 第1四半期 連結累計期間	第23期
	自 平成28年3月1日 至 平成28年5月31日	自 平成29年3月1日 至 平成29年5月31日	自 平成28年3月1日 至 平成29年2月28日
売上高 (千円)	9,982,090	8,531,155	35,446,389
経常利益 (千円)	519,839	5,136	445,475
親会社株主に帰属する 四半期純利益又は 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純損失( ) (千円)	230,129	25,153	470,394
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	272,046	24,017	430,422
純資産額 (千円)	9,570,496	8,491,050	8,691,548
総資産額 (千円)	23,614,970	20,834,853	21,717,678
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期(当期)純損失額( ) (円)	6.52	0.71	13.33
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	39.9	40.1	39.3

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善を背景に、緩やかな景気回復の動きが見られた一方、英国のEU離脱問題や米国新政権への政策不安、及び中国を始めとする新興国経済の不確実性など、景気の先行については不透明な状況が続いております。

当社グループの主要な関連業界である百貨店を含む小売業界におきましては、インバウンド需要の減少や、消費マインドの低下が継続する厳しい状況となっております。

このような状況のもと、当社グループは、「良い人、良い場所、良い商品、良い宣伝」の実施を事業戦略にかかげ、効果的な店舗展開とプロモーション活動及び商品戦略などを展開してまいりました。

当第1四半期連結累計期間の売上高は、85億31百万円（前年同期比14.5%減）となりました。

売上総利益率は、コスト低減に努めた結果、前年同期比1.1ポイント増の69.1%となり、売上総利益額は58億92百万円（前年同期比13.2%減）となりました。

販売費及び一般管理費は、人件費などの抑制を行ったものの、減収により、販売費及び一般管理費の対売上高比率は、前年同期比6.9ポイント増の68.5%となりました。この結果、営業利益は51百万円（前年同期比92.0%減）となりました。

営業外損益は、為替差損39百万円など合計48百万円を営業外費用に計上したため、経常利益は5百万円（前年同期比99.0%減）となりました。

特別損益は、固定資産除却損4百万円を特別損失に計上し、法人税等を計上したため、親会社株主に帰属する四半期純損失は25百万円（前年同期は2億30百万円の利益）となりました。

なお、当社グループは「ファッションブランドビジネス」の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を行っておりません。

当第1四半期連結累計期間における当社グループの主な取組みは以下のとおりであります。

#### <店舗展開について>

出店戦略として、話題の商業施設への出店を行ってまいりました。事業別の出退店数、主な店舗は以下のとおりであります。

バッグ事業においては、11店舗の出店（4店舗の退店）となりました。国内では、名古屋駅前の新たなランドマークとなるターミナルビルJRゲートタワー内の商業施設「タカシマヤゲートタワーモール」に「サマンサバガ、サマンサタバサアニバーサリー タカシマヤ名古屋ゲートタワーモール店」を出店いたしました。海外では中東エリア初となる、アラブ首長国連邦(UAE)のドバイ国際空港近くに位置する巨大ショッピングモール「ドバイフェスティバルシティモール」内の「ロビンソンズデパート」に「サマンサタバサ ロビンソンズ ドバイ店」を出店いたしました。

ジュエリー事業においては、「サマンサティアラ 新宿マルイ本館店」1店舗の出店となりました。

アパレル事業においては、9店舗の出店（3店舗の退店）となりました。「WILLSELECTION(ウィルセクション)」を池袋パルコ、静岡パルコ、浜松メイワン、宮崎ボンベルタに、「Swingle(スウィングル)」をマロニエゲート銀座2に、「REDYAZEL(レディアゼル)」をルミネ立川、名古屋パルコ、有楽町マルイに、「And Couture(アンドクチュール)」を阪急百貨店うめだ本店に出店いたしました。

その結果、サマンサタバサグループ合計でブランド変更を含め、前年度末比で14店舗増加し、当連結会計年度末の店舗数は414店舗となりました。

#### < プロモーション活動について >

プロモーション活動として、TVCMや、多数のファッション誌への掲載、各種イベント・キャンペーンなどを行ってまいりました。

Samantha Vega × 映画『ひるなかの流星』コラボレーションの新CMを、当映画の主演である永野芽郁さんとダンス&ボーカルグループ「GENERATIONS from EXILE TRIBE」のリーダーとしても活躍する白濱亜嵐さんを起用し、楽曲に映画主題歌Dream Amiさん作詞曲の「はやく逢いたい」を使用して放映いたしました。CM放映に伴いサマンサタバサ 表参道GATES ポップアップデジタルストアにおいて、CM連動コラボショップを期間限定展開いたしました。

また、今年度よりニューヨークを拠点に活動し、人気セレブなどのスタイリングや、数多くのブランドでファッションディレクターを務め、その斬新なスタイリングが話題の世界的クリエイターであるニコラ・フォルミケッティ氏とブランドプロデュース契約を結びました。2017年3月には、同氏をプロデューサーに迎え「PINK WORLD BY SAMANTHA THAVASA」を伊勢丹新宿店にて開催し、併せて「サマンサタバサ × 伊勢丹新宿 × 11の人気ファッション誌」がコラボした特別企画を実施いたしました。

そして、サマンサタバサ 表参道GATES ポップアップ デジタルストアにおいて、アニメ「ONE PIECE」(ワンピース)の世界観を表現したコラボショップを展開いたしました。日本発世界ブランドを目指す「サマンサタバサ」と、海外でも人気を博すアニメ「ONE PIECE」、双方を応援する高橋みなみさんをお招きし、トークショーを開催いたしました。また、サマンサタバサならではの華やかさと、ディズニー実写映画「美女と野獣」をモチーフにした世界観を盛り込んだ商品を発売いたしました。映画の登場キャラクター気分を体感できるラインナップと、「ボールルーム」シーンの画像投影や、「バラの立体スタンディ」を設置したフォトスポット等、華やかな企画を実施いたしました。

さらに、新プロモーションモデルとして、2000年以降に成人した社会やファッションに影響を与えるデジタルネイティブである20代～35歳くらいまでのミレニアル世代を代表する「システィーン・スタローン」「ソフィア・リッチー」「ロッチェ・モス」「ケニヤ・キンスキー・ジョーンズ」「サラ・シュナイダー」の5人を新たなサマンサミューズとして起用した「2017 Samantha Millennial Stars」の新CMを放映いたしました。また、2017年4月にはサマンサミレニアルスターズ プレス発表会を実施いたしました。プレス発表会の様子は、TV、スポーツ紙、ネットニュースなど各メディアにおいて大きく取り上げられ話題を呼び、各ファッション誌においても、多数の特集が組まれました。

#### < 商品戦略について >

商品戦略として、各ブランドにおいて多くの新作を販売し、話題性のある商品を販売いたしました。

バッグ事業においては、新プロモーションモデルである「Samantha Millennial Stars」を起用し、日本のKAWAII、そしてサマンサタバサの原点である「Sweet」、ニューヨークの洗練された「Cool(クール)」を融合させた、「Violet D」シリーズを展開致しました。サマンサタバサと出会った全ての人の夢を叶えるという想いを込めた「Dream -夢-」の「D」がモチーフとなった新商品です。

また、前年度にサマンサタバサのプロモーション契約を果たした中村アンさんなど、今注目のデザイナー、スタイリストとのコラボレーションラインナップを多数展開いたしました。

また、Samantha Vega × 映画『ひるなかの流星』コラボ新CMで紹介した、今年トレンドのチェーンがポイントのトートバッグ「アイリア」や丸みを帯びたシルエットがフェミニンなバッグ「シエナ」を展開いたしました。

さらに、サマンサタバサと「ONE PIECE」のコラボレーションとして、バッグからアクセサリまで、「ONE PIECE」の世界観を表現した夢の商品ラインナップをサマンサタバサ 表参道GATES ポップアップ デジタルストアのスペシャルコラボショップにて展開いたしました。

アパレル事業においては、2017年4月に、阪急百貨店うめだ本店が大きいサイズの婦人服売場の全面リニューアルに伴い新設し、日本屈指のインスタグラマー渡辺直美さんを特命バイヤーに起用したセレクトショップ「チャビー カーヴィー (CHUBBY CURVY)」のオリジナル商品企画、制作を開始いたしました。

< 本社移転および教育環境の整備について >

2017年4月に、本社を13年振りに移転いたしました。従業員の業務効率、モチベーションの向上、並びに会議、研修会場の整備を目的に移転し、1フロア約1300坪という都内最大級の無柱空間に執務室と全ブランドのショールームを配備しています。また、カフェおよびミーティングスペースを設け、従業員同士のコミュニケーションおよびクリエイションの活性を図る環境づくりを行っています。働きたい会社として、「フジテレビ」や「テレビ東京」の番組など多数のメディアに取り上げられました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

総資産は208億34百万円であり、前連結会計年度末と比較して8億82百万円減少しております。主な減少要因は、現金及び預金が9億84百万円、受取手形及び売掛金が1億9百万円減少したことなどによるものであります。

(負債)

総負債は123億43百万円であり、前連結会計年度末と比較して6億82百万円減少しております。主な減少要因は、長期借入金が8億69百万円減少したことなどによるものであります。

(純資産)

純資産は84億91百万円であり、前連結会計年度末と比較して2億円減少しております。主な減少要因は、利益剰余金の減少によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	134,400,000
計	134,400,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成29年5月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年7月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	35,296,000	35,296,000	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株式数は100株でありま す。
計	35,296,000	35,296,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年3月1日～ 平成29年5月31日		35,296,000		2,132,600		2,252,600

## (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成29年2月28日)に基づく株主名簿による記載をしております。

## 【発行済株式】

平成29年5月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 35,292,600	352,926	単元株式数 100株
単元未満株式	3,400		
発行済株式総数	35,296,000		
総株主の議決権		352,926	

## 【自己株式等】

該当事項はありません。

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成29年3月1日から平成29年5月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成29年3月1日から平成29年5月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,391,782	3,407,228
受取手形及び売掛金	2,044,079	1,934,895
商品及び製品	7,959,156	8,658,691
原材料及び貯蔵品	293,495	319,808
その他	1,264,886	753,654
貸倒引当金	6,127	6,127
流動資産合計	15,947,273	15,068,150
固定資産		
有形固定資産	1,984,687	2,241,782
無形固定資産		
その他	457,931	448,408
無形固定資産合計	457,931	448,408
投資その他の資産		
差入保証金	2,952,409	2,724,336
その他	410,732	387,531
貸倒引当金	35,356	35,356
投資その他の資産合計	3,327,785	3,076,511
固定資産合計	5,770,404	5,766,702
資産合計	21,717,678	20,834,853
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,745,023	1,560,989
短期借入金	154,752	237,360
1年内返済予定の長期借入金	3,327,524	3,615,024
未払法人税等	303,076	24,950
賞与引当金	234,803	341,237
その他	1,491,873	1,523,865
流動負債合計	7,257,053	7,303,426
固定負債		
長期借入金	5,686,941	4,817,560
その他	82,135	222,816
固定負債合計	5,769,076	5,040,376
負債合計	13,026,129	12,343,802

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年5月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,132,600	2,132,600
資本剰余金	2,252,600	2,252,600
利益剰余金	4,248,743	4,047,109
株主資本合計	8,633,943	8,432,309
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	22,619	8,117
為替換算調整勘定	112,642	94,785
その他の包括利益累計額合計	90,023	86,667
非支配株主持分	147,628	145,408
純資産合計	8,691,548	8,491,050
負債純資産合計	21,717,678	20,834,853

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年5月31日)
売上高	9,982,090	8,531,155
売上原価	3,195,807	2,638,291
売上総利益	6,786,282	5,892,864
販売費及び一般管理費	6,144,181	5,841,370
営業利益	642,100	51,494
営業外収益		
受取利息	200	239
補助金収入	1,916	-
その他	1,446	1,838
営業外収益合計	3,563	2,077
営業外費用		
支払利息	9,057	7,756
為替差損	115,344	39,190
その他	1,422	1,488
営業外費用合計	125,824	48,434
経常利益	519,839	5,136
特別損失		
固定資産除却損	11,527	4,839
その他	2,866	-
特別損失合計	14,394	4,839
税金等調整前四半期純利益	505,445	297
法人税、住民税及び事業税	167,264	40,940
法人税等調整額	114,714	13,380
法人税等合計	281,978	27,559
四半期純利益又は四半期純損失( )	223,466	27,261
非支配株主に帰属する四半期純損失( )	6,662	2,108
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失( )	230,129	25,153

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年5月31日)
四半期純利益又は四半期純損失( )	223,466	27,261
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9,155	14,501
為替換算調整勘定	57,734	17,745
その他の包括利益合計	48,579	3,243
四半期包括利益	272,046	24,017
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	277,808	21,797
非支配株主に係る四半期包括利益	5,762	2,220

## 【注記事項】

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年5月31日)
減価償却費	233,828千円	198,172千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年3月1日 至 平成28年5月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年5月25日 定時株主総会	普通株式	176,480	5	平成28年2月29日	平成28年5月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年3月1日 至 平成29年5月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年5月24日 定時株主総会	普通株式	176,480	5	平成29年2月28日	平成29年5月25日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成28年3月1日至平成28年5月31日)

当社グループは、「ファッションブランドビジネス」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第1四半期連結累計期間(自平成29年3月1日至平成29年5月31日)

当社グループは、「ファッションブランドビジネス」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年5月31日)
1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額 ( )	6円52銭	0円71銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額( )(千円)	230,129	25,153
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額( )(千円)	230,129	25,153
普通株式の期中平均株式数(株)	35,296,000	35,296,000

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 7月14日

株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド  
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	関	谷	靖	夫	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	中	井	清	二	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社サマンサタバサジャパンリミテッドの平成29年3月1日から平成30年2月28日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成29年3月1日から平成29年5月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成29年3月1日から平成29年5月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド及び連結子会社の平成29年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。